

# エコ農業って 知っていますか？



女性特派員：土屋香映

「エコ農業」は、環境にやさしい農業です。今回は、耕畜連携による牛の放牧で遊休農地を解消し、堆肥を利用した土づくりを進めているエコ農業先進地域をレポートします。

のんびり歩く放牧牛の群れ。荒れた農地の再生に役立っています

## 環境にも人にもやさしい「エコ農業」

茨城県は全国有数の農業県です。近ごろの食の安全や環境問題への関心の高まりから、消費者からは、より安全で安心な農業生産が求められるようになりました。そのため、県では、農業や化学肥料に頼りすぎず環境に負荷をかけない農業「エコ農業」の普及に力を入れています。今回は、牛の放牧による遊休農地解消を通してエコ農業を実践している農家を取材しました。

### 耕畜連携の放牧で エコ農業を進めています



（株）菅原農園・ドリームファーム  
放牧による遊休農地の解消は、米の生産調整や遊休農地の増大などを背景に始まりました。常総市大生郷町で耕種農家を営む（株）菅原農園（代表 菅谷新一さん）と同市菅生



しょうゆの搾りかすを再利用した餌も与えています



冬に放牧していた水田で、今は苗が育っています

町の畜産農家ドリームファーム（代表 佐藤宏弥さん）は、遊休農地を解消したいという地区の声を受けて、平成十八年六月からこの取り組みを開始しました。遊休農地一ヘクタールに和牛三頭から始めた放牧ですが、地区や試験研究機関などの支援のもと、現在では約十四ヘクタールに約三十五頭という規模に広がっています。

耕作されなくなった田畑を利用した広大な放牧地を訪ねると、黒褐色の牛の群れがのんびり草を食べていました。主な餌として、牛は春から夏には放牧地の青草を、秋は放牧地に植えたままの飼料用稲を、冬は飼料用稲から作った飼料を食べているそうです。牛が草を食べた後の放牧地は刈られたように整い、美しい景観をなしています。新顔の私が餌を差し出すと、警戒して逃げたり人なつくく近付いて来たり、牛はみな個性豊かで生き生きとしています。こちらの牛はおなかに常陸牛となる子牛を宿している繁殖牛で、牛舎から運ばれて出産の十日から一カ月ほど前まで放牧されます。





オペラ「小町百年の恋」

筑波山を舞台とした小野小町伝説を題材に、国民文化祭のために書き下ろされた創作オペラ「小町百年の恋」。つくば市内の合唱団を中心に、子どもから大人まで約50人が、日本を代表するオペラ歌手との共演に向けて練習に励んでいます。県民オペラ協会の鈴木義弘芸術監督は「地域に根ざす『いばらきのオペラ』として、たくさんの県民に親しまれる作品になってほしい」と話していました。分かりやすくロマンチックなオペラを通じて古代の茨城がいつそう身近に感じられました。(助川奈緒)



オペラ「小町百年の恋」～筑波山愛ものがたり～  
11月3日(月・祝) ノバホール(つくば市)

問 第23回国民文化祭茨城県実行委員会事務局  
☎029(301)2835 ㊟2849  
🌐http://www.kokubun2008.pref.ibaraki.jp/

「こんな効果が出ています」  
放牧地で飼料用稲などを栽培しながら一年中放牧する取り組みにより、荒れていた約六ヘクタールの農地が耕作できる状態に再生し、枯れ草火災の心配が消えて農村景観が良くなったそうです。また、牛の排せつ物や堆肥還元のとづくりによって、環境に負荷をかけない資源循環型の農業が行えるようになりました。さらに、牛の管理費用が通常の約半分に、労働時間は縮減、飼料の自給率は向上し、放牧により空いた牛舎で飼育頭数を増やすこともできました。しかも、放牧した牛は健康で、生まれた子牛も通常より発育が良いそうです。今後は放牧対象地を広げて地区ぐるみで環境保全に取り組み、農業問題の解決策として耕畜連携を確立させることを目指しています。「周りに迷惑をかけたらずいもつりで始



放牧牛から生まれた子牛は元気いっぱい

めましたが、今は地域貢献しながら牛を飼わせてもらっています」と菅谷さん。「菅谷さんは牛の管理が上手で細かなことにも気が付いてくれ、経営も良くなり大変助かっています」と佐藤さん。誠実な笑顔が印象的なお二人でした。環境にやさしい農業は、少しずつ根付き始めています。

地区ぐるみで取り組む「エコ農業茨城」



いばらきの美しい農村景観を守り、環境にやさしい農業をこれまで以上に普及させるため、県は今年度から「エコ農業茨城」をスタートさせました。これは、農村の環境保全活動と環境にやさしい農業活動に、一体的に取り組む地区を支援するものです。放牧による遊休農地解消なども、こうした活動の一つにあたります。また、「エコ農業茨城」に取り組む地区で、農薬などを五割以上減らして生産された農産物は「いばらきエコ農産物」として認証され、インターネットやイベントなどさまざまな場でPRされます。私たち消費者も、環境面・健康面から「エコ農業茨城」を理解し、美しい農村風景を思い浮かべながら「いばらきエコ農産物」を購入し、地産地消の輪を広げていきたいと思っています。



問 県農産課  
☎029(301)3931 ㊟3939  
各地方総合事務所農業(農林)課  
または各市町村農業担当課

みんなで取り組もう「エコ農業茨城！」

エコ農業茨城への取り組み手順

一 まず、総点検活動に取り組みしましょう  
集落などを基本単位として、集落営農組織や転作組合など既存の地区組織を活用した活動組織をもとに、地区の農地・水路などの農業用施設や平地林・里山などの状況を把握し、地区の環境や栽培方式などについて地区ぐるみで話し合い、エコ農業茨城に取り組むことを申し合わせましょう。

二 協定を締結し、点検シートを提出しましょう

総点検活動を踏まえ、地区と市町村長との間でエコ農業茨城協定を結ぶとともに、エコ農業茨城への参加を確認するエコ農業茨城環境規範点検シートを農業者ごとに提出(地区の販売農家のおおむね2/3以上)すると、エコ農業開始地区となります。

三 地区の活動を進めるため、次のような支援策があります

例えば、

◎ 化学合成農薬と化学肥料を五〇%以上削減する栽培など環境にやさしい営農を行うことで余計にかかった経費について、助成します。

◎ NPOや民間企業の協力を得ながら、協働して遊休農地の解消などの活動を行います。